

i-Construction推進協が初会合

関東整備局、群馬県ら

受注者のノウハウ蓄積に不安



建設現場の生産性向上策
i-Constructionを進めるため、
群馬県内の受発注者が情報
交換や意見交換を行う「群
馬県i-Construction推進協議会」が発
足し、3日に群馬県高崎市
の関東地方整備局高崎河川

国道事務所で初会合が開
かれた。写真。関東整備局の
県内5事務所、群馬県、群
馬県建設業協会（青柳剛会
長）、群馬県測量設計業協
会（富永伸樹会長）が参加。
会長には桑原正明高崎河川
国道事務所長が就任した。

関東整備局は、今後掘削
工事に着手する「新三国ト
ンネル工事」土捨て場やト
ンネル本体の施工で想定し
ているCIM（コンストラ
クション・インフォメーシ
ョン・モデリング）の導入
方法などを紹介した。

群馬県は、盛り土施工な
ど全工程でICT（情報通
信技術）を活用した「国道
354号板倉北川辺バイパス」
（板倉町）の事例や3
月に運用を始めた「群馬県

ICT活用工事（ICT土
工）試行要領」を紹介した。
意見交換では「受注者が
今後、どのようにノウハウ
を蓄積すべきか」が議論に
なり、群馬建協からは「I
CT施工現場では、導入初
期ということもあり外部の
コンサルタントなどにアウ
トソーシングしているのが
実情。受注者のノウハウ蓄
積につながらないのではな
いか」という危惧がある」と
の指摘が出た。

県からは「ドローン（小
型無人機）を用いた測量は
比較的容易だと思うが、3
次元データをマシンに入力
することなどいくつかのハ
ードルがあるようだ。より
使いやすいものに改良して
ほしい」との意見があった。